おおた　やすたか
太田康隆
議会報告
E-mail ; jimin-h10@hamamatsu-shigikai.jp

ー交付金とはー

交付金とは、国などが特定の目的で交付する金銭。地方自治体が自主的な計画を策定し、それを国が予算・税の面から支援する形態をとっているが、国の裁量権が実質的に及ぶことになる。地方では確保した交付金を何に使い、将来負担を最小化するかの視点が求められる。臨時交付金であっても、長期的視点が必要と思う。

（都）美薗線整備事業

残区間500m（第二工区）について事業認可が昨年度下り、令和４年度は詳細設計と物件調査を行ってきた。令和５年度は道路下部に設置される都市下水路の設計並びに道路用地買収予算を確保して早期の事業進捗を要望している。また関連する諏訪神社前の、市道西美薗51号線の道路整備（側溝設置）についても令和５年度の工事着手を期待したい。

用地買収が始まった小林駅前広場

浜北中央北地区の整備

浜北中央北土地区画整理事業については、令和３年12月の組合設立以降、組合では地区計画の策定や仮換地指定に向けた準備が進められている。一方、区域外の関連公共事業については遠州鉄道小林駅前広場の収用が始まった。令和５年度については、前年度（1.47億円）以上の予算確保が望まれる。

雷神橋（県道細江浜北線）整備事業

雷神橋については、現在の仮道利用から、令和５年11月の本道への切替をめざして上部工の工事が進められている。また、西向交差点区間260mについて令和４年10月に地元への事業説明会も行われた。令和５年度について雷神橋の計画通りの切替と、道路整備の進捗に期待をしたい。

馬込川に架かる雷神橋　上部工のようす

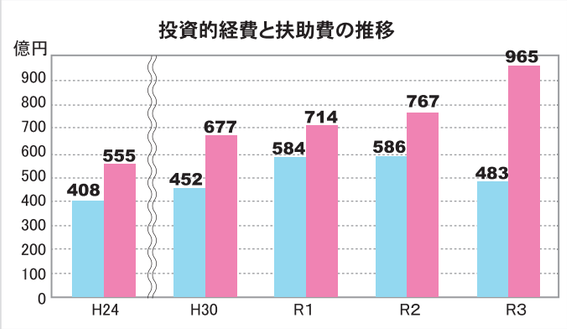
（都）浜北馬郡線整備事業

R4年度は第３工区（高畑～寺島＝1.48Km）を３分割した３−１工区について、用地補償・用水路付替設計を、３−２／３工区の用地測量・道路詳細設計を実施した。そもそも工区の細分割は望むところではない。令和５年度は第３工区全体の確実な進捗を要望している。

議会質問の詳細は浜松市ホームページをご覧下さい。
浜松市 ＞ 浜松市議会 ＞
議会中継　会議録検索システム

令和３年度決算審査より

新型コロナ対策の子育て世代に対する特別給付金事業117億円の増、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業55億円の増などにより、扶助費は大幅に増加している。



投資的経費＝道路建設や施設建設などの工事費や用地取得費
扶　助　費＝子ども手当など児童福祉費、障害者福祉を含む社会福祉費、生活保護費など。Ｈ２２からの急激な増加は、子ども手当（民主党政権）や生活保護費の増加などによる。

扶助費の内訳と比較（単位：億円）

区 分	H24	R3
児童福祉費	285	528
社会福祉費	126	236
生活保護費	109	113
老人福祉費	20	14
その他	15	74
合　計	555	965

９月豪雨及び台風15号浸水被害への対応

9月の大規模な浸水被害に対して、浜松市は11月補正予算で単独事業8900万円、河川維持改修事業8250万円を計上した。維持改修は主に土砂搬出、浚渫等で浜北区は11ヶ所、3250万円。単独事業は調査・計画策定など。浜北区関連は次の通り（下図参照）

①小林11号排水路外　流域浸水対策検討事業
＝1000万円
浸水箇所現況調査、地盤調査、対策検討など

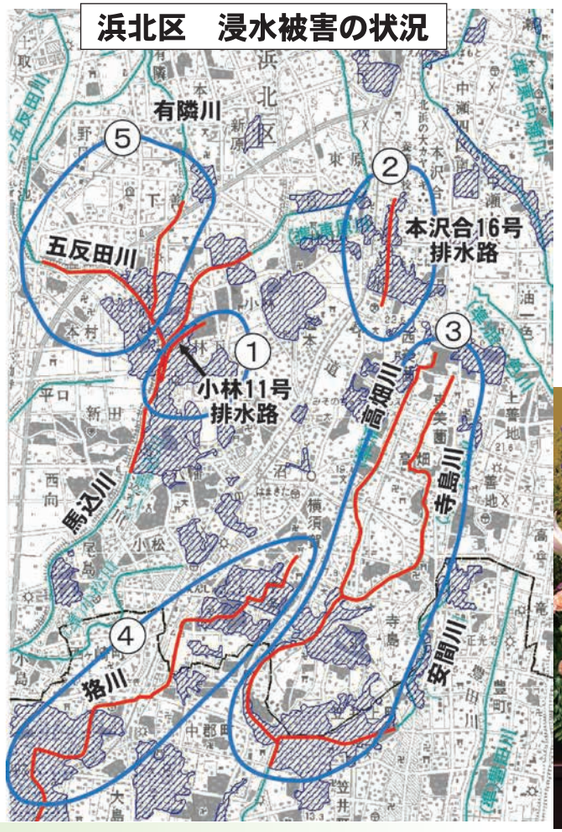
②本沢合16号排水路　流域浸水対策検討事業
＝1000万円
浸水対策検討、校庭貯留効果検証など

③安間川西支線外　改修計画策定業務
＝2000万円
高畑川、寺島川整備計画策定業務、浸水対策、調整池機能検討など

④狢川河川改修詳細設計業務
＝1000万円
整備計画の詳細設計など

⑤五反田川・有隣川河川改修事業【当初予算＝令和4年度・国の交付金事業】

今回の災害に先立ち、両河川は国の社会資本整備交付金事業として、申請をしており、河床掘削、調整池機能などを含めた河川整備手法について具体的な検討が始まる。



災害に備える

９月２日の豪雨による市内の浸水被害は、床上46（27）棟、床下123（88）棟、合計169（115）棟だった。また9月23日の台風15号では床上472（144）棟、床下1470（341）、合計で1942（485）棟発生した。（　）内は浜北区の件数（内数）。

資本主義経済下における企業は利潤の最大化を求める。典型的な例が「ジャストイン生産方式」や「在庫ゼロ」だ。現代社会は無理や無駄を排除するため「選択と集中」を事業の指針として採用してきた。しかし、今回の新型コロナ感染症や、多発する自然災害は、こうした経済合理性を優先した考え方と、相性が悪いということを、我々に教えた。

リスクに対応するということは、「無駄になるかも知れないが、壊滅的な打撃を避けるための備えはしておく」ということである。

大切なことは、合理性と備えとのバランスだ。例えば河川でいえば、調整池のようなもので、突発的な豪雨には一時的に貯水し、危機が去ったのちに、時間をかけて排水するが如く。　また、火災における空地が如く。金沢市では寛永年間の大火の反省から、「広見」と呼ばれる小さな空閑地が残っている。その数、市内で21か所。

そして身近な問題として、我々市民も協力して出来ることは、最低でも有効幅員４ｍで側溝の付いた道路を整備することである。火災や水害に備えて・・・。

災害に備えるためには、無駄になる部分は出来るだけ少なくして、しかしリスクには対応できる賢い方法を考えていく必要がある。

浜松市議会議員　太田 康隆

2度目の議長を務める